TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

真実のベル はっきりさせる
ガラテヤの信徒への手紙 5:19-26

2023 年 7 月 29 日 & 30 日
ジェシー・セザリオ 牧師

ごあいさつ

TBC ウェスト トウキョウ、TBC 三郷、福岡国際キリスト教会、そしてスバとトンガのバプテスト教会の皆さん、おはようございます。
主であり救い主であるイエス・キリストの恵みが、今日も皆様の霊と共にありますように。
祈りましょう。

ガラテヤの信徒への手紙 5:19-26
「肉の行いは明白です。淫行、汚れ、放蕩、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、嫉妬、怒り、利己心、分裂、分派、妬み、泥酔、馬鹿騒ぎ、その他このたぐいのものです。以前も言ったように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはありません。これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制であり、これらを否定する律法はありません。キリスト・イエスに属する者は、肉を情欲と欲望と共に十字架につけたのです。私たちは霊によって生きているのですから、霊によってまた進もうではありませんか。思い上がって、互いに挑み合ったり、妬み合ったりするのはやめましょう。」

Ⅰ:イントロダクション

パウロは二つのリストを私たちに示しています。一つ目は、肉の行いのリスト。そしてもう一つは霊の結ぶ実のリストです。
これらのリストには注意すべき違いがあります。
一つ目は、「行い」についてのリストです。二つ目は「実」のリストです。パウロはこれらの言葉の選択によって、すでに私たちにいくつかの背後関係を示しています。
「行い」は私たちが容易に理解できるものであり、肉の性質にふさわしい言葉です。行いと肉は現実的な意味で合います。これらは、私たちが行い、それに向けて働き、努力し、いったん完了すれば、成し遂げられます。つまり行うことによって完成されます。
しかし、実についてはまったく別のレベルのものであり、全く違った性質のものです。実という言葉を使うのは珍しいことであり、一般的なカテゴリーに当てはまりません

Ⅱ:肉の行いのリスト

最初のリストで、パウロは肉の行いが人の生活の中で実行される方法を 15 種類以上挙げています。肉が好むことを成し遂げるために、肉において行われるのです。パウロは、これらの肉の行いをファネロス(ギリシャ語)と表現しています。それは明白であり、はっきりしており、よく知られており、外見的にも公的にもそうであるという意味です。

しかし、聖書によれば、これらの肉の行いは、それを行う者にはそれ相応の報酬そして死が与えられるのです。言い換えれば、そのような行いをする人々は、満足を感じながらも、それが引き起こす苦痛を感じないのです。

CIP(先天性無痛症)という病気があります。このような病気です。
この病気の患者の主な特徴は、生まれたときから体の痛みを感じることができません。しかし、通常の触覚は感じることができます。手が触れているのを感じることはできるが、針で突かれているのを感じることはできません。

子供の頃、初めてこの病気の話を聞いたとき、とてもいいと思いました。痛みを感じないことができるなら、それを望まない人がいるでしょうか。しかし、この病気にかかった人たちの写真を見ると、彼らはあらゆる種類の重傷を負い、体中にギプスをはめられ、傷跡だらけでした。彼らは血やあざを見るのは嫌でも、傷ついている時は痛みを知らないので、痛みを恐れることはありませんでした。
なので、この病気は非常に危険です。この病気の人は自分がやっていることが、死ぬかもしれないことだと理解していません。

彼らのように、この地球上の誰もが、似たような病気をもって生まれてきます。CIS と呼ぶ病気、先天性(生まれつき)罪不感症を持って生まれてくるのです。誰もが罪を犯し、罪の結果に対して盲目です。罪がもたらすダメージに鈍感です。彼らはこれを理解せずに罪を犯します。

聖書は、肉の行いには結果が伴うと教えています。それはローマ信徒への手紙 1 章の最後で説明されています。それだけではなく、霊的な結末についても教えています。このような行動をとることによって神の御国を受け継ぐことが出来ないことです。
すべての人が罪を犯し、永遠の神の国ではなく、むしろ死を受け継ぎます。99%の地球上の生物は絶滅しました。絶滅はこの堕落した世界の常態と言えます。
人々は、このことが自分自身に起きていると認識できません。肉体的には元気でも、精神的には衰えていっています。

イエス・キリストの死と復活によって神が救いを与えてくださったことを信じていないか、あるいは、イエスを信じているつもりでも、神の国に入れるかどうか確信が持てないでいます。自分が十分善人かどうか、十分なことをしたかどうか、十分祈ったかどうか、十分信じたかどうかわかりません。
特に、このような大きなリストに直面しているときに。

ここでパウロが言いたいことは、正しい見解をもって見る必要があります。なぜパウロはここで兄弟たちに向かって言っているのでしょうか。

考えてみましょう。パウロはまず、彼らの抱えている大きな問題、つまりユダヤ教の儀式に従って神に認められた義を求めることについて話し始めます。しかし、それはガラテヤの教会に通う人々とは何の関係もないようなリストを挙げていきました。
そして、それに反する者は神の国を受け継ぐことはできませんと結論付けています。

そういうわけで、パウロが信者の救いを失う可能性のあるリストを信者に与えたように見えますが、この先を見てみましょう。それは醜いものです。これが実際パウロの教えなら、私たちの永遠の救いは実際には永遠ではないので、確信できるものではないという意味です。つまり、神の子をはじめに信じても、自分が本当に救われているのかどうか、いつも自問自答しなければならないわけです。自分は十分に善良であるか、十分にやるべきことをやったのかと思うのです。

これは「肉の行い」のリストであり、これを読むとまるで精神的なジェットコースターに乗っているようです。それは四つの姦淫の罪から始まります。私たちのほとんどが注目する姦淫、婚外性交、不品行、淫行、私は大丈夫！私の成績は A+。そして偶像礼拝、魔術について読んで「ああ、あの古代異教の儀式か」いや、私には関係ないので A+。しかし、ここで揺れます。憎しみ、争い、嫉妬、怒りの爆発、利己的な野心、紛争、異端的主張。」ここでは B-。まだ合格点範囲内。妬み、殺人、泥酔、歓楽については B+。だから私は A-で合格だ。

そして次にすることは、もう一度読むことです。ひとつひとつの重さを再チェックし、まだ合格であることを確認するのです。
再び「姦淫」を目にします。そして、私たちは自分自身を推論し始めます。イエスが言ったように心に欲望を抱いたなら、それは即座に姦淫を犯したことになるわけです。そして私たちは言います。イエスはそういう意味で言ったのではない。私はまだ大丈夫だ。

いや、イエスはそういう意味で言いました。実際、このリストを徹底的に捜査すると、あなたはこれらのいくつか、あるいは多く、あるいはすべてを犯していることに気づくでしょう。そして、念のためにそれを理解していない人がいるために、パウロは「このようなこと」と付け加えているのです。
パウロはイエスと同じことを言っています。この教会の破滅への欲望、互いをむさぼり合う欲望は肉に根ざしています。パウロがここで言っているのは、彼らが宗教や儀式には希望を抱くだけで、これらの罪を犯しているということです。
これらは小さな罪ですが、より大きな罪の種です。そして、これらの種を蒔くことによって、私たちは今も外に向かって罪を犯しているのです。

心の中で罪を犯すことは外に向かっても罪を犯すことになるとイエスが教えたことに驚いた弟子たちのように、私たちも、では誰が救われるのか、と聞きます。不可能でしょう！なぜなら、弟子たちはただ生きているだけで、救いの資格を失うことを知っていたからです。そして、あなたも同じです。

サタンが砂漠でイエスと戦ったことを覚えていますか。サタンが神の子と戦う中で、サタンの一番効果的な攻撃は、実際に神の言葉を単独で、不正確に、中途半端な真理を持って使うことでイエスを混乱させる事でした。でもサタンは失敗しました。親愛なる信者の皆さん、これがサタンの戦術の一つであることを理解してください。サタンは、あなたに対しても、神の御言葉を間違っている使い方をします。

私たちの救いについて、聖書の御言葉に耳を傾けてください。これが真実の福音です。
パウロ：ローマの信徒への手紙 8:39「私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできないのです。」
イエス：ヨハネによる福音書 10:29「誰も彼らを父の手から奪うことはできない。」
ペテロ：ペテロの手紙一 1:5「救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。」
ヨハネ：ヨハネによる福音書 15:16「私があなたがたを選んだ。あなたがたが行って実を結び、その実が残るように」

神を賛美します。

だから、正しい観点は、神の国を受け継げない人々は信者でない人々を意味しています。パウロは 13 節で、私たちはキリストにおける自由という特権の中で自由なのです。なぜなら、何があっても、私たちは救われています。
すべての信者は神の力によって救われています。行い力によってではありません。

ローマの信徒への手紙 6:23
「罪の支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命なのです。」

永遠の命とは、消えることがないという意味です。ですから信者の皆様、安心してください。神があなたを愛しているかどうか、またあなたのことを気にかけているかどうかを恐れる必要はありません。そう感じるなら、サタンがあなたの頭の中で聖句をねじ曲げようとしています。
パウロは、**コリント人への手紙一 9 章**で、似ているリストで締めくくっています。**「私には、すべてのことが許されています。しかし、すべてのことが益になるわけではありません。私には、すべてのことが許されています。しかし、私は何事にも支配されはしません。」**

コリントの信徒への手紙やガラテヤの信徒への手紙でパウロが列挙した肉の行いを行っても、あなたを罪に定めるものは何もありません。一つもありません。
人はしばしば悪い結果と憎しみを混同します。まるで神が、あなたがした肉の行いを見て、神があなたを狙って、見捨て、あなたの人生のすべてを生き地獄にしようとしているかのように思ってしまいます。

悪い結果があったとしても、その考えのようになりません。
親はこの事をよくわかります。しかし、親でない人たちにも、このことがはっきりとわかるはずです。
子供が何か悪いことをしたとき、そしてその状況での猶予が尽きたとき、私たちは子供をしつけます。その最初の猶予が大切なのです。

親の仕事は子供をしつけることだけでなく、彼らが生活し、人生の中で機能し続けることができるように回復させることでもあります。回復したとはいえ、またしつけが必要になる可能性が高く、そのプロセスは繰り返されます。そして、そのプロセスは繰り返されるべきです。子育てに即効性というものはありません。

しかし、しつけられた直後、子供は親や権威を避けます。恐怖を感じ、どこかに隠れてしまうこともしばしばあります。

彼らは何を考えているのでしょうか。恐らく恐怖でいっぱいで、怒りさえ抱いているかもしれません。
子供たちがこのような状態に陥ったとき、しばらくして、私は彼らを回復させる必要があることを知っています。彼らには助けが必要で、愛が必要です。
なぜなら、私たちがしつけをするのは、子供たちの心がより健全なものに変わるためだからです。

多くの場合、うまくいかないのは、イライラした親が、子どもが作り出した距離を助長し、健全な機能に戻るよう促さず、そのままにしてしまうことです。そうして、罰から拷問、そして育児放棄へと発展していきます。

人間関係がこのような状態だったらどうなるか想像できますか。考えてみてください。あなたはこのようにしていますか？
なぜならば、これこそが問題です。実際、私たちはこのように人間関係を扱っています。まさにこれがパウロの書いていることです。

パウロのこの手紙の目的は、ガラテヤの信徒たちに、行いを強調する宗教を作っても、自分の義とは結びつかないことを思い出させることです。覚えておいてください、キリスト教とは宗教ではなく神との個人的な関係です。
しかし、キリスト教があなたと神との関係だけだと考えてはなりません。キリスト教とは神における家族との関係もさします。宗教の帰結として、教会の一致を壊します。これもあって、パウロはこの手紙を書きました。

パウロはガラテヤの信徒への手紙で次のように語っています。
エフェソ 4:2-3「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて霊による一致を保つよう熱心に努めなさい。」
ガラテヤ 5:15「互いにかみ合ったり、食い合ったりして、互いに滅ぼされないように気をつけなさい。」
ガラテヤ 5:26「思い上がって、互いに挑み合ったり、妬み合ったりするのはやめましょう。」

パウロは、個人の行いを誇ること、良い行いをしない人を非難することを止めるように言っています。他人の落度を責めたり見捨てたりすることを

非難しています。交わりを断ち切ることは、リストにある罪よりも悪いことです。

どうしてそう言えるのでしょうか？パウロは次のように語っています。
ガラテヤの信徒への手紙 6:1-2
「きょうだいたち、もし誰かが過ちに陥ったなら…」

これは軽い過ちでしょうか？ほんとうにマイナーな過ちなのでしょうか？いいえ、それ以上です。
パウロは言います。「霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正しなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。互いに重荷を担いなさい。そうすれば、キリストの律法を全うすることになります。」

そして 6 章の前で、パウロは二番目のリストをくれました。
霊の結ぶ実のリスト
「これに対し、霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制…」

肉の行いに関する最初のリストは、パウロが言ったように、明確で明白です。であれば、霊の結ぶ実のリストもファネロス、つまり明白であると言えます。勉強には役立つかもしれませんが、パウロが何を意味しているのかを理解するために、これらの簡単な言葉を理解するために一つ一つ辞書を引く必要はないと思います。

木に実っている実のように遠くから見えるようなものでないとありません。
しかし、これらの実は超自然的なもので信仰者にとっては異質なものです。私たちは皆、肉を持って生まれてくるわけで、聖霊をもって生まれてくるわけではありません。

イエス・キリストを信じるとき、すべての信者は聖霊を与えられます。
しかし、一人ひとりが常に霊の結ぶ実を結んでいるわけではありません。それは、この箇所の文脈からもわかります。パウロは私たちに霊の結ぶ実を結ぶように励ましています。

残念なことに、時々、聖霊が現れるのは自分と神との個人的な関係のためだけにあると考えている人々がいます。そうではあります、それ以上のものでもあります。

間違ってはならないのは、聖霊はあなたのためだけにあることです。神があなたを喜ばせるために聖霊を与えたと考えるのは重大な間違いです。聖霊の実を表すためには、誰か他の人がいないとまず不可能であることに気づかなければなりません。つまり、他人の影響が必要です。

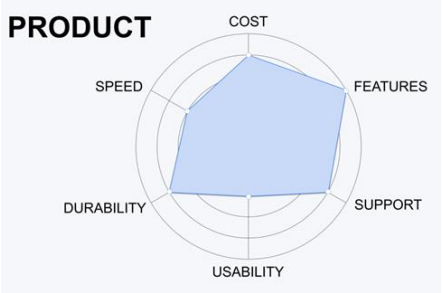
聖書はこう言います。
コリント信徒への手紙一 12:7「一人一人に霊の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」

実とは、文脈から察するに、行いではないようです。
その理由のひとつは、それが私たちに与えられた賜物だからです。神の言葉は、実の源があなたであるとか、あなたがすることであるとは言っていません。超自然的なものです。

実は成し遂げられるものではありません、すくなくとも完成されるという観点では成し遂げられません。なぜなら、それは永遠のものだからです。生ける神の本質の一部であり、神にとっては自然のことです。
そして、それが神にとって自然なことであるならば、私たちを超越したものです。
実が単数形であることに注目してください。なぜなら、これらの実の部分はすべて、聖霊そのものの一部であり、聖霊は信者の内に住んでいます。

技術製品のさまざまな点の強さを示す図を見たことがありますか。私は日本に来るまで、このような図を見たことはありませんでした。例をお見せしましょう。

今日の聖句に出てくるリストから9箇所の実について考えてみましたので、もう一つの図を作ってみました。



これは、信仰者がどのような姿であるか表す図です。しかし、ここでの大きな問題は、どのようにして私たちの人生に実を結ばせ、その実は私たちに輝きを加えることができるかです。そして、どうすれば、私たちが指示されているように、教会に利益をもたらすようになるのでしょうか。



それは考えているだけでなく、行動することで示さないといけません。
心理学の専門用語に深入りせず、行動に関する 2 つの基本的な考え方を紹介させてください。

ひとつは「反応条件付け」と呼ばれるものです。これは、何かを見たり、感じたり、味を感じたり、匂いをかいだり、触ったり、あるいは想像したりすることが、私たちの行動に影響を与えるというものです。
もうひとつは「オペラント条件付け」と呼ばれるものです。オペラント（操作的）とは、条件づけや影響に基づいて、何か新しいことをしたり、行動を変えたりすることです。
私たちが子供をしつけるとき、これはオペラント条件付けの一種です。負の強化によって、何かをするのを止めさせて、違うやり方やより良いやり方をさせようとします。
子どもを褒めるときもオペラント条件付けの一種ですが、励ましによって、うまくいったことをまたやるように仕向けます。

しかし、この聖書箇所では「オペラント条件付け」は見られません。賞賛はないし、パウロはガラテヤの教会を止めるために罰を用いているわけでもありません。彼らが何かをしたからといって、罰を与えることは考えていません。パウロは悪を止めることは不可能だと知っているからです。

パウロは自分自身でこれを認識しています。

ローマ信徒への手紙7:18-19
「私は、自分の内には、つまり私の肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はあっても、実際には行わないからです。私は自分の望む善は行わず、望まない悪を行っています。」

パウロの悪は、彼の中だけで起きていることではありません。彼は、自分の行動を理解していてもやってしまいます。どうすればやめることができるのでしょうか。どうすれば善を行うことができるのかさえわかりません。
この惨めな男を救えるものは何でしょう。
自分が中心ではない。パウロが行ける場所はただ一つ。それは十字架です。

キリストに属する者は、その情欲と欲望とを伴う肉を十字架につけたのです。

聖書によると、イエスは聖霊に導かれて砂漠に行き、サタンの誘惑を受けました。砂漠でイエスは、彼に影響を与えるようなものから誘惑を受けました。そこでサタンは、三つの誘惑を用いてイエスがメシア、人類の救い主となる計画を妨げようとしました。もしイエスが死ななければ、私たちも罪の中に死ぬことになり、人類が滅亡することをイエスは知っていました。

サタンはイエスの支持とイエスからの礼拝を望んでいました。しかし、イエスは十字架にかかる必要があると理解していました。イエスの亡くなる直前に、彼はとても苦しみました。私たちはこれを受難と呼びます。その苦しみの中で、イエスは私たちに対する愛を示されました。私たちは皆、罪の中でサタンにすでに忠誠を誓っていたのを知っていたにもかかわらず。

ヘブライ人への手紙 9:14「まして、永遠の霊によってご自身を傷のない者として神に献げられたキリストの血は、私たちの良心を死んだ行いから清め、生ける神に仕える者としないでしょうか」

キリストは再び、聖霊に導かれて、十字架につけられるためにカルバリの頂上まで、一歩一歩あるきました。私たちは罪の中で道を踏み外しながらも。私たちは自分が行きたい方向に向かい、主なる神を否定しました。

キリストは完全に聖霊の内に歩まれました。イエスほど御霊にあることを明確に示すものはありません。



だからパウロは、まず十字架を思い起こさせ、キリストがなさったように、私たち自身も、自分の情熱や欲望を十字架につけるように指示しました。パウロは、私たちが行かなければならない場所はただ一つであることを知ってほしいのです。それは十字架です。

私たちが御霊のうちに生きているなら、御霊のうちに歩みましょう。

御霊のうちに歩みたいと思いますか。
どうすれば変われるのでしょうか。どうすれば自分を超えて、聖霊の中で歩むことができるのでしょうか。

聖書によれば、聖霊のうちを歩む方法は、キリストが教会をどのように愛されたかという福音への応答的な条件付けであり、聖霊の力による超自然的なものです。
これが適用です。これが変化の方法です。それが共に働くのです。
聖霊のうちに歩むことを完璧に適用するのは、キリストの受難のうちに歩むことであり、他者を愛する目的のために自分の肉を十字架につけることです。
その第二の部分を忘れてはいけません。それがなければ、実を結ぶことはありません。

うぬぼれたり、互いに挑発し合ったり、ねたみ合ったりしてはなりません。

さて、ガラテヤ 6 章を一巡させなければなりません。キリストが私たちを愛してくださったように、他者を愛する唯一の目的は、非難でも、分離でも、消費でもなく、回復するためです。

ガラテヤ信徒への手紙 6:1-2
「1きょうだいたち、もし誰かが過ちに陥ったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正しなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。2 互いに重荷を担いなさい。そうすれば、キリストの律法を全うすることになります。」

キリストが私たちを愛してくださったように、私たちも互いに愛し合いましょう。
聖霊によって十字架へと導かれましょう。十字架の上に自分を置きましょう。そして、その十字架の上から下を向いて人々を愛してください。
神のあなたに対する願いは、神によって救われ、神によって回復され、神のように愛することです。これが、私たちが永遠の命に生き残る方法なのです。
世の救い主、イエス・キリストを信じてください。そうすればあなたは救われます。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3123jp

★クラス 101
教会員（TBC メンバー）になるためのクラス
9 月 9 日（土）13:30～17:30
参加条件: どなたでも
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu